



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2021年2月22日 No.286

「2021年3月ダイヤ改正等について」に関する申し入れ 新幹線統括本部と団体交渉を開催！

2021年3月ダイヤ改正における東京新幹線運輸区の発足に伴い、東京駅での折り返し間合い時間の僅少行路が多数発生することから、東日本ユニオンは改善を求めて2月18日、新幹線統括本部と幹申第2号の団体交渉を行いました。



行先地における感染予防（手洗い等）やトイレ時間、 食事時間の確保を求めるも実現せず



団体交渉では東京駅ホーム下詰所が使用停止になることから、労働環境が変化するため「労働実態に合わせて行路を作成したのか」を質しました。

【組合側主張】

- ①折り返し間合い時間は「次の乗務に対する準備」であり、食事やトイレなど「ゆとり」ある時間の確保が「安全・安定輸送」を実現する上で必須であること。
- ②現場社員に「詰所が使用できなくなる」といった正確な情報提供のもとで行路作成を行ったのか。

新幹線統括本部は「新幹線は一般線区であり、稠密線区でいうところの食事・睡眠時間に配慮し、総合的に勘案した上で行路を作成している」と回答しました。

【新幹線統括本部回答】

- ①意見は受け止めるが、規定の範囲で行路設計している。
- ②食事やトイレ時間は社員個々で違う。乗務の途中で生理現象で列車が遅れることもあると認識している。食事をとるタイミングについては、社員個々で判断することとなる。
- ③「折り返し時間に変更になる」との情報を現場には伝えたが、情報提供に関しては課題があると受けとめる。



「次々期ダイヤ改正までホーム下詰所の継続使用」を要求！

組合：折り返し間合い時間（ノーペイ）0分、2分というのは、食事や生理現象のほか、列車遅延という面で不安や不満がある。東京新幹線運輸区に行くことは労働義務か。

会社：東京駅ホーム下詰所は使用停止とする。東京新幹線運輸区に行くことが基本となるが、列車遅延などで次列車の乗務に間に合わない時は、列車警乗係員の待機場所（現行の北部詰所）で運行情報を知得することができる。異常時の情報知得を目的とする場所のため、長時間の滞在はできない。

東京新幹線運輸区まで行く時間がない場合には、社員個々の判断で異常時に情報を知得する場所（現北部詰所）で待機することを確認！